

☆「心に訴えかける感動」(柴崎幸音)

はじめまして、東京都立富士高校 1 年の柴崎幸音です。

先日、東京都美術館で行われた「TURN フェス 2」に行って参りました。

アーティストの方々と訪問先の方々と作品を「鑑賞」、ではなく「体験」させていただきました。「体験」ということで、球体の家をデザインしたり、織布を体験させていただきました。作品を生かすために、人の存在が不可欠であった今回の作品を体験して、ある経験を思い出しました。

それは二週間のオーストラリアにホームステイの経験です。ホームステイ前はお名前は知っていたものの、顔を知らなかったホストファミリーとの生活に、不安と緊張を抱いていました。しかしホームステイ中にホストファミリーとの食事、生活をしていくと、食事を「おいしい」と感じ、海岸を見ると「きれいだなあ」と思ったことを、ホストファミリーと共有していくうちに、最初に感じていた不安や緊張は消えていることを実感しました。

これは、人と人がつながるために言語や文化の違いは関係なく、人間の心に訴えかけるような感動や自然が大事であるということを表しているのではないのでしょうか。

今回の TURN フェス 2 でも同じで、アートを通じて障がいの垣根を超えて、人と人はつながることができると感じました。そしてアートは身近に溢れています。美術作品だけでなく、建物や音楽もアートの一環と捉えていけば広い人々との関わりを実現できることを学びました。

着々と近づいている東京オリンピックでは、競技がメインイベントでありながらも新国立競技場の設計や選手団が身につける公式スポーツウェアのデザインには長く時間をかけています。それだけアートが重要視されていることを表しているのではないのでしょうか。そしてオリンピック本番では外国の選手だけではなく、観戦のために日本を訪れる外国人は今日本にいる外国人より遙かに多いと思います。そのような人々と、我々日本人をつなげるのは、言語も大事ですが「アート」は国境を超えて、文化を超えて、両者の心をつなぐツールになっていくのだと、TURN フェス 2 に参加し、認識することができました。